

豊能医療圏
がん医療ネットワーク協議会
活動報告〔令和5年（2023年）3月14日〕

市立豊中病院

大阪大学医学部附属病院

組織図



【参加団体】

- ◆ 医師会
- ◆ 保健所
- ◆ 市町がん検診担当課
- ◆ ホスピス・在宅診療所
- ◆ 大阪府訪問看護ステーション協会
- ◆ がん診療（連携）拠点病院

がん登録部会

【部会活動のメインテーマ】
網羅的で精度の高いがん登録の実施

【令和4年度（2022年度）活動報告】

1. 院内がん登録データを用いた現状分析

- ・豊能医療圏の国・府指定拠点病院で算出した2020年・2021年症例の院内がん登録データから、地域、進行度や治療内容のベンチマークを作成し、自施設の登録状況の把握と豊能医療圏での前立腺がんの現状について比較分析を行った。

がん登録部会

2. 院内がん登録の精度管理

- 各施設が連携し情報共有を図ることで、精度の高い院内がん登録データの構築に努めた

緩和ケア部会

【部会活動のメインテーマ】
緩和ケアの普及

【令和4年度（2022年度）活動報告】

1. 緩和ケアにかかる地域医療機関との連携強化

- 地域連携情報シート（リレーシート）の有効活用に向けた検討
 - ①地域連携カンファレンスの開催
 - ②リレーシート活用の現状と課題について
検討後、内容を部会メーリングリストで共有
 - ③リレーシート活用にかかるアンケート実施

緩和ケア部会

地域連携情報シート

地域連携情報シート Ver.1 (リレーシート)		患者 氏名	記載日	年	月	日
病名	生年 月日	年	月	日	性別	記載 者 MSW
現時点で予測される予後	<input type="checkbox"/> 日単位 <input type="checkbox"/> 週単位 <input type="checkbox"/> 1-3ヶ月 <input type="checkbox"/> 3-6ヶ月 <input type="checkbox"/> 6ヶ月以上 <input type="checkbox"/> ()					
急変リスクの見込み	<input type="checkbox"/> 低～中等度 ⇒ (具体的に) <input type="checkbox"/> 出血 <input type="checkbox"/> 穿孔 <input type="checkbox"/> 誤嚥 <input type="checkbox"/> 血栓症 <input type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> その他 ()					
予後説明 (時期・伝えた相手・内容)	<input type="checkbox"/> 予後については知らせていない <input type="checkbox"/> () () () に対し () と伝えた					
病状・予後説明の特記事項 (患者に悪い説明をしない等)						
症状緩和における注意点 (もしあれば)	・効果が乏しかった薬剤() ・副作用が強かった薬剤() ⇒ 副作用の内容 () ・その他()					
*ここから上の太枠内は医師が記載してください。画像のCD・撮影所見を添付して下さい <input type="checkbox"/> 診療情報提供書参照						
起居動作	<input type="checkbox"/> 自力歩行可能 <input type="checkbox"/> 介助歩行可能 <input type="checkbox"/> ベッド上臥床 <input type="checkbox"/> ()					
食事量	() 割程度					
医療処置	<input type="checkbox"/> 末梢静脈点滴 <input type="checkbox"/> OVポート <input type="checkbox"/> 月1回の注射 <input type="checkbox"/> 持続皮下注射 <input type="checkbox"/> インスリン <input type="checkbox"/> 外傷チューブ <input type="checkbox"/> 尿道カテーテル <input type="checkbox"/> 在宅酸素 <input type="checkbox"/> 人工肛門 <input type="checkbox"/> 褥瘡 <input type="checkbox"/> 創処置 <input type="checkbox"/> 気管切開 <input type="checkbox"/> 吸引 <input type="checkbox"/> 胃ろう <input type="checkbox"/> その他() *点滴・注射の内容() <input type="checkbox"/> 別紙参照					
現在の苦痛な症状	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()					
現在の状況	<input type="checkbox"/> 入院中(退院予定日) <input type="checkbox"/> 通院中⇒今後の通院予定 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有					
同居家族	<input type="checkbox"/> 独居 <input type="checkbox"/> () 人暮らし:同居家族; ()					
訪問看護	() 訪問看護ステーション					
ケアマネージャー	() 担当者: ()					
在宅担当医	() () 医師					
外来主治医	(診療科:) () 医師					
緊急時の入院受け入れ	<input type="checkbox"/> 可能 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 条件付で可(具体的内容:)					
医療保険	<input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> 公費助成()					
介護保険	<input type="checkbox"/> 認定有() <input type="checkbox"/> 申請中(区分変更含む)⇒認定調査日: <input type="checkbox"/> 未申請⇒理由:					
看取りの場所の希望 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> 自宅 () 病院 () () <input type="checkbox"/> ホスピス/緩和ケア病棟() 病院 ⇒面談日: <input type="checkbox"/> 未調整					
状態悪化時の対応(希望)	<input type="checkbox"/> 入院希望無し <input type="checkbox"/> 入院希望あり⇒() 病院 <input type="checkbox"/> 不明					
備考 (本人の思いや希望を含む)	<input type="checkbox"/> 別紙参照					
発信元	〒					
TEL	FAX					
担当:						

- 豊能医療圏がんネット
ワーク協議会緩和ケア
部会で作成した、医療
連携情報ツール。
- 予後説明や看取りの場
所の希望、本人の思い
や希望を記入する欄が
あるのが特徴。
- 運用から4年経過し活
用状況を見直すことにな
った。

緩和ケア部会

・地域連携カンファレンス

- ①がん拠点施設と緩和ケア施設とでペアを組み
- ②リレーシート活用症例をもとに各施設で
カンファレンス実施

日時	医療機関	会場
10/7	大阪刀根山医療センター・千里中央病院	大阪刀根山医療センター
11/9	市立豊中病院・大瀬戸内科（豊中市医師会） 訪問看護ST協会	市立豊中病院
12/1	市立吹田市民病院・おきしろ在宅クリニック	市立吹田市民病院
12/5	箕面市立病院・千里中央病院	箕面市立病院
12/12	済生会吹田病院・緑・在宅クリニック	済生会吹田病院
1/12	大阪大学医学部附属病院・ガラシア病院	大阪大学医学部附属病院と ZOOM

緩和ケア部会

● リレーシート活用の現状と課題の共有

内容	施設名	回答
送付先拡大	大阪府済生会吹田病院	当院では医師のみに情報提供書と共にシートを送付していたが、訪問看護ステーションやケアマネにも送付していく運用となった。
	緑・在宅クリニック	情報シートについては、非常に有意義な情報が多いので、在宅医だけでなく、ぜひ訪問看護、ケアマネージャーにも送付してほしいとのご意見がありました。
ACP	大阪府済生会吹田病院	項目18(備考)について、重要な情報と認識して、しっかりと記載していきたいとの声があった。シートの記載は退院支援看護師が記載しているが、ACPに関する情報がカルテに記載されていない、情報がないといった現状がある。記載の負担というよりも、ACPに関する情報がカルテに記載されていることの方が重要である。また、退院支援する側にとって、ACP情報は調整に重要な要素であり、あればありがたいとの意見があった。院内でACPに関わる職員が意識して情報をキャッチしていく、それをカルテに記載して共有するという院内の風土を構築していきたい。
	緑・在宅クリニック	項目18(備考)はほとんど白紙のことが多いですが、本人や家族の思いがしっかりと記載してあるシートは素晴らしいという話も出ました。
	市立豊中病院	リレーシートには予後説明の有無、備考欄ではあるが本人の思いや希望を記入する欄など、医師間の診療情報提供書や看護記録ではあまり取り扱われないが有用な項目がある。意思決定支援に関わる項目の拡充、新設を行うとよいのではないかと。
シート有用性の啓蒙	大阪府済生会吹田病院	シートの効果や有用性など、このような機会を通じて医師をはじめとする医療従事者にも理解、認識してもらう必要がある。
	市立吹田市民病院	当院ではリレーシートの普及が十分できておらず、現在あまり活用が出来ていない状況ではあります。
	市立豊中病院	項目①-⑤は市立豊中病院では医師が記入することになっている。残念なことにリレーシートの意義をよく理解していない医師もいるので、自由記載よりはなるべく空欄にならないようにチェック項目は維持した方がよいのでは。
状態変化の際のシート再作成について	大阪府済生会吹田病院	特に時間が限られた患者は、退院調整している間に状態が変化するため、作成時と退院時とは変化が生じていることもある。随時、シートを再送付することは非効率のため、当院では都度、状況に応じて在宅チームと連携を取り合っていくことになった。
	緑・在宅クリニック	患者の状態が変化する中で、作成時と退院時で状態が変わってしまっている場合があり、その場合に改めて作成するかどうか議論がありました。送り手の負担、受け手のメリットを考えた際に、このシートを改めて作成するのは現実的ではなく、変更点を地域連携担当者から受け手に伝えるのがよいのではないかと意見が出ました。

緩和ケア部会

・リレーシート活用アンケート

地域連携情報シート Ver.1 (リレーシート)		患者 氏名	年齢	性別	住所 〒 市区町村 番 号	TEL	FAX	担当
1	視察点で予測される予後	<input type="checkbox"/> 日単位 <input type="checkbox"/> 週単位 <input type="checkbox"/> 1-3ヶ月 <input type="checkbox"/> 3-6ヶ月 <input type="checkbox"/> 6ヶ月以上 <input type="checkbox"/> ()						
2	悪化リスクの見込み	<input type="checkbox"/> 低～中等度 → (具体的に) <input type="checkbox"/> 出血 <input type="checkbox"/> 穿孔 <input type="checkbox"/> 誤嚥 <input type="checkbox"/> 血栓症 <input type="checkbox"/> 高い <input type="checkbox"/> その他 ()						
3	予後説明 (時期・伝え方・内容)	<input type="checkbox"/> 予後については知らせていない <input type="checkbox"/> ()に()に対し()と伝えた						
4	病状・予後説明の特記事項 (患者に悪い説明をしない等)	<input type="checkbox"/> 効果が出なかった薬剤() <input type="checkbox"/> 副作用が強かった薬剤() <input type="checkbox"/> 副作用の内容() <input type="checkbox"/> その他()						
5	症状緩和における注意点 (もしあれば)	<input type="checkbox"/> 効能が乏しかった薬剤() <input type="checkbox"/> 副作用が強かった薬剤() <input type="checkbox"/> 副作用の内容() <input type="checkbox"/> その他()						
*ここから上の内容等は医師が記載してください。薬剤・処置の記載(数回分・頻度)で、薬物のCD・薬剤料を添付して下さい。								
6	自立動作	<input type="checkbox"/> 自力歩行可能 <input type="checkbox"/> 介助歩行可能 <input type="checkbox"/> ベッド上臥床 <input type="checkbox"/> ()						
7	食事量	<input type="checkbox"/> 軽微 <input type="checkbox"/> 中等 <input type="checkbox"/> 軽微						
8	医療処置	<input type="checkbox"/> 末梢静脈点滴 <input type="checkbox"/> O.Vポート <input type="checkbox"/> 月1回の注射 <input type="checkbox"/> 持続皮下注射 <input type="checkbox"/> インスリン <input type="checkbox"/> 外傷チューブ <input type="checkbox"/> 尿道カテーテル <input type="checkbox"/> 在宅酸素 <input type="checkbox"/> 人工肛門 <input type="checkbox"/> 褥瘡 <input type="checkbox"/> 創処置 <input type="checkbox"/> 気管切開 <input type="checkbox"/> 吸引 <input type="checkbox"/> 胃ろう <input type="checkbox"/> その他() *点滴・注射の内容() <input type="checkbox"/> 別紙参照						
9	現在の苦痛な症状	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有()						
10	現在の状況	<input type="checkbox"/> 入院中(退院予定日) <input type="checkbox"/> 通院中⇒今後の通院予定 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 有						
11	同居家族	<input type="checkbox"/> 独居 <input type="checkbox"/> () 入籍らし: 同居家族; ()						
12	訪問看護 ケアマネージャー 在宅担当医 外来主治医	訪問看護 () 訪問看護ステーション () ケアマネージャー () 担当: () 在宅担当医 () () 医師 外来主治医 () () 医師						
13	緊急時の入院受け入れ	<input type="checkbox"/> 可能 <input type="checkbox"/> 不可 <input type="checkbox"/> 条件付で可(具体的内容:)						
14	医療保険	<input type="checkbox"/> 特保 <input type="checkbox"/> 公費助成						
15	介護保険	<input type="checkbox"/> 認定有() <input type="checkbox"/> 申請中(区分変更含む)⇒認定審査日: () <input type="checkbox"/> 未申請⇒理由: ()						
16	看取りの場所の希望 (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> 自宅 <input type="checkbox"/> ()病院 <input type="checkbox"/> () <input type="checkbox"/> ホスピス/緩和ケア病棟()病院 ⇒ 施設名: () <input type="checkbox"/> 未調整						
17	末期療養時の対応(希望)	<input type="checkbox"/> 入院希望無し <input type="checkbox"/> 入院希望あり⇒()病院 <input type="checkbox"/> 不明						
18	備考 (本人の思いや希望を含む) <input type="checkbox"/> 別紙参照							

<リレーシート各項目に対する意見まとめ> (意見の多い順で記載しています)

▲拡充 (18) 備考欄 →スペースの拡充希望多数

- ・生活上の注意点、本人の性格や思い、医療者側の懸念事項など。
- ・療養の場所が変わった場合、本人が実現したいことや希望など。
- ・患者や家族が目を通す(看護)サマリには記載しにくい申し送り事項

○継続 (3) 予後説明 (4) 予後説明の特記事項

- ・診療情報提供書など他の資料に記載がないことが多いので有用。リレーシート独自の重要項目。
- ・誰に説明したかの欄で「家族」など曖昧にせず、誰に説明したか記載して欲しい。家族内で共有できていないこともある。
- ・家族間で異なる説明もされていることがあるのでその旨も記載してほしい。
- ・() 内に記載する形式ならば記入者の負担も少なくて済むと思う
- ・患者自身に伝えているか、または患者が限定した家族(配偶者〇、子×など)に伝えているのかなどを記載できる点が良い。

▲拡充 (16) 看取りの場所の希望

- ・希望する看取りの場が本人と家族で異なることもあり、本人と家族を分けて記載する。
- ・ホスピス、緩和ケア病棟、在宅医療調整中の有無は把握できた方がよい。

○継続、削除 (9) 苦痛な症状

緩和ケア部会

2. 緩和ケアの普及・啓発

- 部会メーリングリストを活用し、勉強会等の情報共有を活発に行った。

緩和ケア部会

次年度の活動予定

- リレーシートの現状と課題を踏まえ、未導入施設への普及や効果的な運用方法について検討する。
- 引き続き勉強会等の情報共有に取り組む。

がん検診情報部会

【部会活動のメインテーマ】
がんに関する情報の普及、
及びがん検診の受診率向上

【令和4年度（2022年度活動報告）】

1. がん教育の推進

- 各市町がん検診担当課から、各市町教育委員会への働きかけ

市町名	取り組み
豊中市	<ul style="list-style-type: none">・市立中学校3年生へ出前授業を実施(1校)。その際、がん検診のパンフレットを生徒に配布し、保護者への周知啓発を行った。・今後の取組みについては、新型コロナウイルスの感染症法上の分類引き下げが予定されていることから、教育委員会、豊中市保健所、市立豊中病院で連携を図りながら、「がん教育」の啓発を積極的に進めていく。
池田市	<ul style="list-style-type: none">・市立中学校2年生 200人にがん看護認定看護師が講演した。また、大阪府からの依頼で市外の中学校でも16人に講演を行った。
箕面市	<ul style="list-style-type: none">・昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、教育委員会との調整が進まず、出前講座や研修会などは実施していないが、中学校2校で生徒を対象に外部講師(医師・看護師)によるがん教育を行った。
吹田市	<ul style="list-style-type: none">・小学4年生を対象としたキッズ健康サポーター教室で、一部がんについての話を取り入れている。今年度は1校から依頼があり実施。学校教育部では、中学校1校で、大阪府の制度を活用してがん教育を実施した。
豊能町	<ul style="list-style-type: none">・例年年度当初の校長会及び養護教諭会議において対象生徒にHPVワクチン接種勧奨チラシ配付の依頼を行っているが、昨年度については感染症対応のため、実施できなかった。
能勢町	<ul style="list-style-type: none">出前講座や研修会などは実施していないが、8年生(中学2年生)の保健体育で、がんについて学習している。・教科書を使用してがんについての学習・喫煙防止について、がんやたばこの害についての学習

がん検診情報部会

2. がん医療公開講座の実施の方向性等についての検討

- 新型コロナウイルス感染症が感染症法上の分類が2類から5類に変更されることによりイベント等の開催については、ある程度制限が解除されることになると思われる。次年度の開催方法についてはWEB開催・ハイブリット開催とともに来場者を招いて講演会形式で開催する手法も検討する。

がん地域連携部会

【部会活動のメインテーマ】
地域連携によるがん医療の充実

【令和4年度（2022年度）活動報告】

- がん相談支援センター業務における各拠点病院の課題や問題点について情報医共有を行い連携や改善を図る。

がん地域連携部会

〔令和4年度（2022年度）の具体的な取組み〕

【就労支援等について】

就労支援にかかわる相談件数を増やすため、令和3年度の検討を踏まえて、圏域内で相談件数の多い施設の取組みについて、情報を共有し、各施設での相談件数の増加を目指す。（圏域内での相談件数を増やす。）

【がん相談支援センターの院外での認知状況について】

各相談支援センターの院外患者の利用状況から、一般住民や他施設利用のがん患者への効果的な周知が必要と考えられる。このため、各施設のホームページへの各相談支援センターの一覧を掲載するなど、圏域内で連携して、認知（活用）の向上を図る手法を検討、実施する。

がん地域連携部会

○ 就労支援等について

1. 部会の取り組み

- 相談件数の多い施設の取り組み内容について、発表する機会を設け、各施設へ情報提供を図った。
- これらを参考に、各施設の状況に応じた取り組みを進めることとした。
- 就労支援に関する相談の定義を定め、各施設で適切に集計出来るように整理を行った。

就労支援に関する相談：「仕事、就職、働き方」などのキーワードが出てきた相談とした。

2. 各施設の取り組み

- 主たる相談に加えて、従たる相談件数を把握するため、相談件数の集計方法を見直した。
- 実績のある施設の取り組みを参考に、施設の体制に応じて以下の取り組みなどを行った。

院内の患者向けの周知（ポスター掲示など）

職員へ向けての周知（会議等を利用した説明）

入退院サポート部門との連携強化

医療保険情報より社保本人の入院患者への就労支援等のチラシ配布

がん地域連携部会

3. 取り組み結果

- 令和4年8月より、各施設で順次取り組みを行い令和5年1月までの6ヶ月間の就労に関する相談件数を集計。
- 令和4年2月より7月までの6ヶ月間の相談件数と比較した。

就労、仕事に関する相談件数(従たる相談も含む)

施設名	A	B	C	D	E	F	G	H	計
R4.2~R 4.7	52	10	20	9	0	2	0	38	121
R4.8~R5.1	29	17	12	5	3	1	3	50	103

- 取り組み前6ヶ月と比べ増加した施設は4施設。

がん地域連携部会

4. まとめ

- 各施設で職員への周知啓発、関連部門との連携強化など、就労に関する相談の掘り起こしを行った。
- 活動期間が6ヶ月と短い期間であったこともあり、効果が認められたのは4施設であった。
- 周知啓発など継続的に取り組むことで、効果が出てくるものが中心であるので、長期スパンでの活動及び検証が必要。

がん地域連携部会

○がん相談支援センターの院外での認知状況について

1. 豊能医療圏がん医療ネットワーク協議会HPを活用し、各施設のがん相談支援センターへのリンクに加え、各施設から圏域内のがん相談支援センター一覧へのリンクを張ることで、相談支援センターの周知を図った。

対応済	5施設
対応中	2施設
対応未	1施設

(HP見直し中のため、見直しに合わせて対応予定)

がん地域連携部会

○当部会のこれまでの総括と今後について

1. 当部会は「クリニカルパス」「セカンドオピニオン」「がんリハビリテーション」に関して一定の成果を上げた後、「がん相談支援センター」に焦点を移し、その病院内外での周知をはかることと、特に就労支援業務について各施設の相互啓発をはかることに一定の成果を上げることができた。
2. 当部会としては、地域連携における「がん相談支援センター」の果たす役割は大きいと考え、就労支援以外にも相互啓発できる諸問題を取りあげて検討していきたい。
3. その他に、当部会であつかうことが望まれる、地域連携に関連する新規課題について検討していく。

がん研究部会

(1)小児がん対策

● 小児がん診療に関わる医療機関ネットワークの構築

大阪大学医学部附属病院は、2019年に厚労省認定小児がん連携病院、大阪認定府小児がん拠点病院となり、小児がん拠点病院を含む大阪府内の小児がん診療施設と連携し、小児がん患者の質の高い診断・診療に取り組んでいる。

特に骨軟部腫瘍、脳腫瘍、網膜芽細胞腫および肝移植の必要な肝芽腫などについては大阪府内から患者が集積しており、小児科、小児外科、眼科、整形外科、脳神経外科などと連携して治療にあたっている。

血液・悪性腫瘍やその他の疾患に対する造血細胞移植も積極的に施行しており、血縁、非血縁（骨髄バンクなど）、臍帯血のすべてに対応している。

2020年からはキメラ抗原受容体（CAR）-T抗原療法認定施設として、難治性血液・悪性腫瘍の治療に取り組んでいる。

AYA世代のがんに対しても積極的に加療を行っている。

妊孕性温存については、生殖医療センターと連携し、治療提供を行っている。

長期フォローアップ外来を通じて、一生を通じて質の高い生活を送ることができるように多診療科による医師、看護師（研修会受講済）、臨床心理士、薬剤師、ソーシャルワーカーなどの多職種による支援を行っている。

がん研究部会

(2)骨髄移植および臍帯血移植の推進

● 骨髄移植および臍帯血移植の現状

同種造血幹細胞移植の件数は年間27件（2022年）である。移植の幹細胞ソースとしては血縁（骨髄、末梢血幹細胞）、骨髄バンク（骨髄、末梢血幹細胞）、臍帯血のすべてに対応しており、昨年は末梢血幹細胞を用いた移植が2/3となっていた。また造血器腫瘍に対する免疫細胞治療としてCAR-T療法を2020年より開始し、2022年は26件施行している。

(3)がん研究の推進

● 多施設臨床研究の推進（特定非営利活動法人SCCRE（エスキュール））

がん臨床研究を実施する7つの研究会（消化器がん、乳がん、肺がん、泌尿器系がん、骨髄腫等）を支援している。

● 臨床研究中核病院

平成27年8月に臨床研究中核病院の認定を受けた。未来医療開発部の支援の下、がん薬物療法の治験治療等、質の高い臨床研究を推進している。

がん研究部会

● がんゲノム医療中核拠点病院

- ・「がんゲノム医療を総括する部門の設置」として、がんゲノム医療センターを設置し、平成30年2月にがんゲノム医療中核拠点病院の指定を厚生労働省より受け、令和2年3月に引き続き指定を受けた。

- ・令和5年1月時点で、がんゲノム医療拠点病院（全国に33病院、うち大阪府下3病院）、及びがんゲノム医療連携病院（全国9病院、うち大阪府下5病院）と協力して、がんゲノム医療の社会実装を推進している。

（協力している大阪府下7病院：【拠点】大阪国際がんセンター、近畿大学病院【連携】大阪公立大学医学部附属病院、大阪急性期・総合医療センター、大阪労災病院、堺市立総合医療センター、市立豊中病院）

- ・平成30年10月より先進医療B「マルチプレックス遺伝子パネル検査」を実施した。（199例登録）

- ・令和元年9月中旬より2種類のがん遺伝子パネル検査の受付を開始し、血液検体を用いたがん遺伝子パネル検査（FoundationOne Liquid CDx）を令和3年9月から受付を開始した。（令和元年：96件、令和2年：224件、令和3年：255件、令和4年：244件）

- ・令和元年10月から、国立がん研究センター中央病院が調整事務局となり実施する「遺伝子パネル検査による遺伝子プロファイリングに基づく複数の分子標的薬治療に関する患者申出療養（受け皿試験）」が特定臨床研究として開始された。当院も協力医療機関として承認され、受付を開始している。

- ・令和4年9月より、AMED全ゲノム研究（患者還元班）に参加し、難治癌に対する全ゲノム解析研究を実施している。（100例予定）

がん研究部会

(4)先進医療の推進

●以下の先進医療を現在実施中である（R5.1.1）

1.テモゾロミド用量強化療法 初発時の初期治療後に再発又は増悪した膠芽腫（先進医療B）

2.術後のアスピリン経口投与療法 下部直腸を除く大腸がん（先進医療B）

3.術前のゲムシタビン静脈内投与及びナブ-パクリタキセル静脈内投与の併用療法 切除可能な膵臓がん（七十歳以上八十歳未満の患者に係るものに限る。）
（先進医療B）

がん研究部会

(5) 人材育成

- がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン
(大学院)

109名が在学中

(薬物療法、放射線治療、外科治療、緩和医療、医学物理、がん病理、細胞診、がん看護、小児がん、ゲノム医療、創薬など)